

第1回 公園活性化協議会

議事概要

開催日時 2021年7月16日（金）10:00~12:00

開催場所 広島県庁 自治会館 101会議室

出席者 渡邊会長 百武委員 小神田委員 堂本委員 中野委員 住吉委員 大前委員
井上委員 前川委員 平山委員 重光委員 山田委員 樋口委員

議事 公園活性化協議会及び公園活性化プランイメージについて事務局から説明後、公園活性化プランの検討着手にあたっての考え方等について意見交換した。

（主な内容）

1. 県立3公園の今後のあり方の考え方

- 今ある課題への改善策を整理するだけでなく、県立3公園の今後10年後を想定した視点が重要である。
- 広域の中での役割を考える必要がある。周辺地域の中で上手く連携させて役割分担を図っていく必要がある。
- 収益力のアップとメンテナンスコストの減という視点が重要である。収益については、長く滞在してもらうために、飲食施設などがあることも大きい。また、その時にターゲットをどこに設定するのが重要である。県立びんご運動公園では、オートキャンプ場と競技施設を上手く組み合わせると、1日中滞在できることにも繋がる。メンテナンスについては、植栽についても検討が可能と思われる。
- 未利用地の活用を検討する時には、無理やり使うのではなく、「使わない」「これはやらない」という判断も重要である。
- 10年後の課題を見据えた、もう少し広い長期スパンでの事を考えるべき。

2. 今後のターゲット設定

- 今後のターゲットとなる世代や地域を考えるにあたっては、平日と大会（イベント）がない休日、大会がある休日では利用状況や集客状況が異なるという点も視点として必要である。また、地域の参加というところも考慮しながら検討することが重要となる。
- 各公園の近くで多くの人が集まる場所やショッピングセンター等の民間施設を含めてどこに人が集まっているのかというデータを出すことで、新たなターゲット設定のヒントとなる。

3. 県立3公園のポテンシャル

- 合宿誘致ができる可能性がある。
- 県立みよし公園にはしょうぶ園，県立せら県民公園には自然観察園があるため，四季を通して花などを見られる場所があれば来園される方もいる可能性がある。
- 県立せら県民公園の周辺には観光農園（バラ園など）もあるため，連携や協力できれば人の流れも変わってくる可能性がある。

4. 近年の観光業界における動き

- コロナ禍の影響で，マイクロツーリズムという，近場の観光を掘り起こそうという動きがあり，アウトドアや自然体験などのアクティビティには人気がある。特定ユーザーに対して選ばれるような施設整備を行っていくのも一つの考え方である。
- 地域の方々と連携したり巻き込んだりするために，地域での体験観光型のプログラムをつくるという事例もある。地域住民との交流は，リピーターに繋がっていくという効果も出ている。地域資源を上手く使っていく事が体験プログラムの個性やオリジナリティにもつながる。
- プログラムを作成する資金が無い時にはクラウドファンディングを使うことで，プログラムづくりやイベントをするといった傾向がある。地域の色々な企業を巻き込みながら一緒にプログラムをつくることで，そのお客さんをファンにして巻き込んだ形で集客のリスクを回避するという事もできる。プログラムやイベントを作る際は，教育旅行や研修旅行などの団体を見据えてつくることも重要であり，団体誘致を見据えた BtoB の考え方も必要である。

5. 公園利用者のニーズ

- コロナ禍において，子育て世代には，安全に楽しく過ごせることのできる広場などの居場所が求められるとの意見を聞くことがある。
- 広島県緑化センターでは，来訪者や維持管理の予算が減少する中で，指定管理者や自治体の努力によってトイレ整備に投資し，水洗トイレや車いすへ対応したほか，ホテル並みに清潔な維持管理を行ったことにより，新たな利用者層を獲得することができた。